

令和 4 年度文化芸術振興費補助金メディア芸術アーカイブ推進支援事業  
有限会社タクンボックス

事業名

古川タクの作品・活動アーカイブ

概要

1964 年から個人作家として短編アニメーションを制作し、国際映画祭で活躍してきた古川タクの作品・関連資料のアーカイブを実施した。作家が個人保管していたフィルム・資料を、継続的に調査、管理、デジタル化、公開していくための体制を整え、とくにフィルム検査、デジタル化、資料整理、リスト作成、作家ヒアリング、ウェブサイトの立ち上げ、簡易アーカイブマニュアルの頒布を行った。

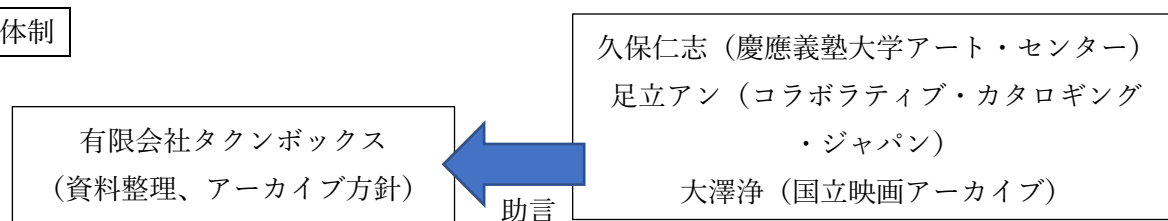
フィルムについて

事業初年度にあたる令和 4 年度は SD、HD、4K によるデジタル化が終わっているとされていた情報の正誤を確認することから始め（実際には 4K デジタイズが行われたことはなく、SD、HD のデータ所在も不明瞭な状態にあった）、今年度デジタル化した作品データを管理、リスト化するとともに、依頼に応じて上映・閲覧案内ができる環境を整えた。

物理的なフィルム調査においては、1970 年代制作と思われるアニメーション CM が発掘されたが、劣化が進んだポジフィルムであった。次年度に復元作業が行えるようラボ技術者とフィルムの状態を確認し、今年度は復元もととなる映像のデジタル化までを行った。

デジタル化の作業が完了したフィルムは随時、国立映画アーカイブへ寄贈を行う。

体制



成果

(公開)

ウェブサイト「TAKU FURUKAWA ARCHIVE」にて、以下を公開。(2023年2月9日)

<https://archiveanimation.wordpress.com/>

- ・作品リスト「短編アニメーション (フィルム)」
- ・オーラルヒストリー「久里実験漫画工房時代、1964年から70年代にかけて」※英訳あり
- ・個人アニメーション作家のためのアーカイブマニュアル (テスト版)

(成果物)

- ・フィルム検査 13 本 (短編アニメーション 12 本、実写映像 1 本)
- ・フィルムデジタル化 38 作品 (短編アニメーション 12 作品、短編アニメーション CM26 作品)
- ・資料リスト「短編アニメーション中間素材」
- ・作品リスト「短編アニメーション作品 (フィルム)」
- ・オーラルヒストリー「久里実験漫画工房時代、1964年から70年代にかけて」※英訳あり
- ・個人アニメーション作家のためのアーカイブマニュアル (テスト版)

#### 文化的・社会的・経済的な意義

##### 資料整理、ヒアリングの公開により、アニメーション研究を促進する

これまでリスト化、HD デジタル化されていなかった古川タクのアニメーション作品資料を調査、整理した。それによって明らかになった中間素材や映像を閲覧しながらヒアリングを行うことで、1960年代後半に行われていた個人作家による独特なアニメーション制作手法、撮影方法について情報を得ることができた。

それらをテキスト化し、次年度以降も継続的にウェブ等で公開することで、アニメーション研究への貢献が期待される。

##### ヒアリング (オーラル・ヒストリー) の英文公開により、海外圏からの日本アニメーション史の関心度の向上、普及を図る

今年度はとくに、国際映画祭で活躍する日本の短編アニメーション作家の先駆けを生んだ草月「アニメーションフェスティバル」についてのヒアリングを英文でも公開した。

美術史研究とも親和性が高い当該箇所はアレクサンダー・ザルテン博士 (日本映画研究者、ハーバード大学東アジア言語・文明学部准教授) の助言に基づき、まだ海外圏での英語資料がほとんどないとされる内容を選択した。

##### アニメーションアーカイブの簡易マニュアル頒布により、個人アニメーション作家の資料保護、保管を推進する

高齢化が進む個人アニメーション作家や、その周囲の人々が作品を管理するために参照で

きる簡易マニュアルを作成し、日本アニメーション協会に共有するとともに、一般にも公開した。

本マニュアルは専門家の助言に基づきながら、現実的に作業可能な内容を示すことで、各所が抱える重要な資料を保護し、散逸防止になることを目指して作成した。アーカイブには厳密な規則があるのではないかという作業者の過度な不安を払拭し、平易な読み味になること、安価な用具を紹介することを心がけた。

個人アニメーション作家の作品・資料は、美術作品であると同時に、セル等の特殊素材を含み、領域固有の分類手段（原画、動画といった種別、もしくはカット単位で管理する等）があるため、複数の専門家に助言を依頼した。

具体的には、公的なアーカイブ機関、美術作品を扱う機関、同時代の作家アーカイブを行う機関、アニメーションのアーカイブを行う機関からアドバイスを受けるため、久保仁志氏（慶應義塾大学アート・センター）、足立アン氏（コラボラティブ・カタログング・ジャパン）、光田由里氏（多摩美術大学アートアーカイヴセンター）、山川道子氏（Production I.G）にヒアリングを行った。

#### 残課題

整理した資料、中間素材の恒常的な保管場所を見つけられていない。古川タクの作品のみならず、国内短編アニメーション作品の資料研究、展示活用等を活性化させるための団体、施設の設立を模索している。